慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	アーサー・オショネシー : マラルメの「ゴシップ」『アシニーアム』1875–1876補遺(テクストと翻訳)
Sub Title	Suppléments aux «Gossips de Mallarmé», extraits de l'Athenaeum 1875–1876, traductions libres en anglais par Arthur O'Shaughnessy (Texte et traduction)
Author	原山, 重信(Harayama, Shigenobu)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2013
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. フランス語フランス文学 (Revue de Hiyoshi. Langue et littérature françaises). No.57 (2013. 10) ,p.65- 69
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10030184-20131031-0065

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

アーサー・オショネシー マラルメの「ゴシップ」『アシニーアム』1875–1876 補遺（テクストと翻訳）

原　山　重　信

[0. 18 octobre 1875 — 2.bis N° 2504, Oct. 23, 1875]

Dramatic Gossip.

p.544. Inspired by the success of M. de Lapommeraye, whom we have spoken of in another column, M. Sarcey, of *Le temps*, is going to start in Paris a “feuilleton parlé” or *conférence* on literature. This review, by word of mouth, of the books of the week is, if possible, a more remarkable innovation than the review of dramatic matters, and it will probably have an equal success.

The long celebrated volume of dramatic criticism by M. August Vacquérie[*sic*], ‘Profils et Grimaces,’ from which the entire present generation in Paris has drawn its theatrical education, is about to be followed by another book from that author. ‘Aujourd’hui et Demain’ does not deal, like its predecessor, with the drama, but principally with politics, treated, however, from points of view that render it more especially a work of literary interest. The chapters of the first book had previously appeared in the *Évènement*. The present papers have been contributed chiefly to the *Reppel*.

芝居ゴシップ

我々が別のコラムで触れていたド・ラポムレイ氏の成功に触発されて、

『ル・タン』紙のサルシー氏は、パリで、文学に関する「話す連続ドラマ」或いは「講演」を始めようとしている。この口頭での週間ブック・レビューは、こう言ってよければ、芝居に関する事柄のレビューよりも注目すべき革新であり、恐らく同等の成功を収めるであろう。

オーギュスト・ヴァケリー〔ママ[a)]〕氏による長く知られている演劇批評書『肖像と渋面』、パリの現世代全てがここから演劇教育を引き出してきたが、同作家によるもう一冊の書が続いて出ようとしている。『今日と明日』は前者のように、演劇を扱わず、主として政治を扱っている。しかしながら、その書を、格別に文学的興味を有する作品にしている数々の観点から受け止められる作品である。最初の書の各章は、予め『状況(エヴェヌマン)』紙に掲載されていた。今度の資料は主に『喚起(ラペル)』誌に寄稿されてきたものである。

a) « Vacquérie »（ヴァケリー）は、正しくは « Vacquerie »（ヴァクリー）である。

[17.bis Décembre 1875 — 9.bis N° 2512, Dec. 18, 1875]

Literary Gossip.

p.832. Few novels, poems, or works of literary importance appear in Paris at this period of the year, almost exclusively given up to the illustrated publications for the *jour de l'an* : one, however by the sub editor of the *Figaro*, M. Francis Magnard, entitled 'La Vie et les Aventures d'un Positiviste,' just published, deserves attention. There is much good humour mingled with the higher reasoning of this book ; and many persons, whose philosophical views do not correspond with those of the author, may be attracted by his manner, and find plenty to interest them.

M. Jules Arène, Interpreter in China, has published a work which will have considerable interest for many persons in England at the present juncture, when so much public attention is naturally directed towards China. 'La Chine Familière et Galante,' affords a series of very piquant revelations

as to the most intimate manners and customs of the Celestial Empire, related by one who has had exceptional opportunities for observing them. M. Paul Arène, brother of the interpreter, a poet and novelist, is about to publish a collection of *nouvelles*, under the name of ‘La Gueuse Parfumée, some of which have already achieved considerable success in the journals where they first appeared ; several, however, are quite new.

当節パリでは、専ら元旦のための挿絵入り出版物に充てられ、小説の詩も文学的重要性をもった作品は出ていない。しなしながら、『フィガロ』紙の副編集長、フランシス・マニャール氏による、『或る実証主義者の人生と冒険』と題する書が出版されたばかりだが、注目に値する。この書のより高度な論法と混じり合った、多くの良質なユーモアがある。そして、その哲学的見解がその著者の見解と相容れない多くの人びとでも、彼の作風に魅了され、興味のもてる多くのことを見出すかもしれない。

中国で通訳をしているジュール・アレーヌ氏が、かくも多くの公衆の注意が当然中国の方に向けられている現時点において、イギリスの多くの人びとにとってかなりの重要性をもつ作品を発表している。『親しみやすく雅な中国』は、〈天朝〉の最も親しみやすい作法・慣習に関して、こうした事象を観察する例外的な機会をもつ人によって語られる、一連の極めて刺激的な新事実を提供してくれている。この通訳の兄弟にあたる詩人・小説家のポール・アレーヌ氏は、近況の蒐集を『かぐわしい淫売』という題名で発表しようとしている。そのうちの幾つかは、既に最初に発表された各新聞・雑誌においてかなりの成功を勝ち取っているが、かなり多くのものは全く新しいものである。

訳者後記

これは、本紀要 51 号に掲載したイギリスの週刊文芸誌『アシニーアム』*The Athenaeum* の翻訳の補遺である。訳者は、それに引き続いて、その元になったマラルメの書いたフランス語原稿の翻訳を、第 52 号から第 56 号まで 5 回に分けて発表してきた。その底本を確認すると以下のようになる。

1. Mallarmé, *Œuvres complètes*, II, Édition présentée, établie et annotée par Bertrand Marchal, Bibliothèque de la Pléiade, Gallimard, 2003, pp.416–440, 1698–1702.

2. Les *gossips* de Mallarmé, *Athenaeum* 1875–1876, textes inédits, présentés et annotés pas Henri Mondor et Lloyd James Austin, Paris : Gallimard, 1962, pp.19–75.

このテクストの存在が明らかになったのは、2 の出版によってであった。ケンブリッジ大学のフェロー、ロイド・ジェームズ・オースティンによる精力的な探索にも拘らず、遺漏が生じていたことが判明したのは 1 の新プレイアード全集によってであった。訳者は、2 に付された番号を踏襲しつつ、2 によって新たに発掘されたマラルメのフランス語テクストに、「0」、「17.bis」という番号を付けた。当然のことながら、これらのテクストが英語に翻訳されて『アシニーアム』誌に載ったテクストは、2 には採録されておらず、今回取り上げたのは、原典から直接写したものであって、初めて活字化される。

原典は、東京大学本郷キャンパスの法文 2 号館内にある東京大学附属図書館〔本紀要、第 51 号の p.68 では「総合図書館」と記したが、これは私の記憶違いであった〕所蔵のマイクロフィルムを用いた。

第 56 号の p.66–67 に掲載していた対照表の下に記した注記で示した宿題を一応果たしたことになる。結果として出てきたテクストは微々たるもので

あるが、調査にはそれなりの労力を要した。恐らく新プレイアード全集の編者を除いて殆どのマラルメ研究者も目にしたことのない新資料の発掘という意味では、それなりに意味があろうかと思う。最後の断章のポール・アレーヌに関する記述は、新プレイアード全集には見当たらず、マラルメの送った原稿との間に齟齬があるため、この部分は散逸したとも考えられる。これをもって、本シリーズは、本当に幕を引くこととする。